

地域に愛されて、50周年!



# 青南だより

平成30年3月号

港区立青南幼稚園  
園長 新山 裕之

## <平昌オリンピックに思う>

ここ2週間は、冬季オリンピック史上最高の13個のメダルを獲得した日本人選手の活躍に沸いた日々でした。この冬、たっぷり雪遊びを体験した子どもたちにとっては、より身近な出来事に感じられたのではないのでしょうか。幼稚園にも新聞の切り抜きで、オリンピック紹介コーナーができ、それがきっかけになって友達同士の会話が広がったり、新しい遊びが生まれたりしています。

一方、幼稚園では一年間の集大成として生活発表会があり、子どもたちの成長をお見せする機会となりました。

## <少しずつ段階を踏んで育つ子どもたち>

表現することを楽しむという大きな点は同じですが、各学年で育てたいところは、微妙に違います。3歳児は動物になりきって動くことを楽しむ姿が魅力です。犬になっている子を見かけたら、「お手!」と、なりきりに付き合ってくださいね。その点は4歳児も楽しんでいました。今まで少し殻をかぶっていた子が、動物のお面を付けて物語のストーリーに添って遊ぶ中で、豊かに言葉や動きを楽しむ姿が見られたのは、うれしい収穫でした。遊びの中から創作した劇を大勢の仲間と共に創り上げ、演じた5歳児は、後輩たちにとって大きな憧れの存在となっています。

## <人と人とのつながりによって事は成る>

個人種目であっても、メダルの獲得は決して一人では成し遂げられない偉業です。メダリストへのインタビューを聞くと、特に今回は周囲の人々への感謝の気持ちを素直に語っている姿が印象的でした。メダルは決して個人の力だけで得られるのではなく、オリンピックの神様は、きっとその人格も含めて微笑む選手を選んでいるような気がするの私だけでしょうか。特に私は、小平奈緒選手のライバル選手への気遣いや言葉に素晴らしいスポーツマンシップを感じました。さて、皆さんはオリンピックから何を感じ、自分の生活に何を生かしていきましょうか?

### 青南の 二十四節気

・・・弥生(やよい)・・・

啓蟄(6日)・・・青南ではどんな虫たちが目覚めるでしょうか・・・

春分(21日)・・・園庭の桜はいつ頃開花するでしょうか・・・

裏庭の桃の木の周囲に、『ふきのとう』が顔を出しています。わくわく池にはヒキガエルが姿を見せ始める頃でしょうか。桜の枝のつぼみはどうでしょう。自然の小さな変化に気付く感性は、子どもたちの小さな育ちを読み取る感性にもつながります。南青山のどこで季節の移ろいを感じたでしょうか?次の一年もまた、身近な自然の営みをお楽しみに・・・



役になったつものしぐさや鳴き声で楽しみます



ひよこ組の子たちに歌と楽器遊びを披露しました



年長の衣装を借りて何だか大きくなった気分!



全学年一緒にお別れ散歩と楽しいゲーム



1年生との交流は授業の見学と体験授業